

研究デザイン

亀山市立加太小学校

1. 「亀山市教育大綱 基本方針—1」及び「亀山市教育関係職員の研修方針」

教育大綱 基本方針—1

未来を拓く子どもたちの豊かな学びの実現

亀山市教育関係職員 研修基本方針

「一人ひとりの児童・生徒が個性を生かしながら

なかまとともに主体的に学ぶために」

- (1) すべての子どもの学ぶ意欲を高め、社会で生きてはたらく「確かな学力」を育てる教育活動をすすめる。
- (2) 教師の授業力向上を追求するとともに、系統的な指導をすすめる。
- (3) 人権を尊重し、なかまとともに、豊かな心と身体をはぐくみ、自己肯定感・自己有用感を高める教育活動をすすめる。
- (4) 地域の人材や活動を活用し、地域とともに特色ある教育活動をすすめる。
- (5) 研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励を取り入れ、効果的かつ主体的に資質向上をすすめる。

2. 学校教育目標

仲間とともに 豊かに学び 社会とつながる加太の子の育成

3. 研究主題

「伝えたい」「かかわりたい」「ひとを大切にしたい」と考える加太っ子の育成
～自走力の育成をめざして～

4. 主題設定の理由

本校では、自ら伝え、自らかかわる力を伸ばすために、「対話」を大切にしたい教育活動を進めてきた。研修テーマである「伝えたい、かかわりたい、ひとを大切にしたい」という意思や力については、学習面はもちろんのこと、生活面においても児童に身につけさせたい力として位置付け、継続的に取り組んできた。

学習面では、算数科において複式学級のわたりの授業を行い、日直を中心とした学習リーダーを位置付けることで、児童が主体的に学習を進める場面を設定してきた。その結果、どの児童も学習リーダーを経験し、学年が上がるにつれて自分たちで学習を進めようとする姿や、ペアやグループで積極的に話し合いを行う姿、自然に教え合う姿が見られるようになってきた。

一方で、課題に対して最後まで粘り強く考えたり、根拠を明らかにして相手に分かるように説明したりする力には課題が見られる。また、対話の場面においても、一部の児童の発言に依存する傾向があり、学習集団全体として学びを深める対話には至っていない実態がある。

生活面においては、たてわり班活動や全校集会など、異年齢で関わる機会を意図的に設定することで、児童同士の関係性の広がりが、他者を思いやる姿が見られる。しかし、様々な場面で受け身的な姿も見られ、与えられた役割を果たすことはできるものの、自ら課題を見つけ、仲間と協力して解決しようとする姿は十分に定着しているとは言えない。

これらの実態から、本校においては、これまでの学習リーダーの育成による成果を踏まえつつも、学びを支える基盤として、説明を受ける側の関わり方や、学習に主体的に参加する姿の育成が重要であると考えた。また、これからの社会を生きる児童には、与えられた課題に取り組むだけでなく、自ら課題に向かい、つまづいても学びを止めることなく、他者と関わりながら学び続ける「自走力」が必要であると考えた。

さらに、対話の質を高め、学びの深まりにつなげるためには、その前提となる基礎学力の確実な定着、学び方の習得、そして安心して学びに向かうことができる学級づくりが不可欠である。

そこで本校では、「学級づくり」「基礎学力」「学び方」の三つを柱として取り組むことで、児童一人ひとりが自ら学びに向かい、他者と関わりながら学びを深めることができるようにする。その結果、対話の質が高まり、「伝えたい、かかわりたい、ひとを大切にしたい」と考える児童の育成、ひいては自走力の育成につながると考え、本主題を設定した。

5. 研究主題～つきたい力～について

本校ではこれまで、児童主体の学びを実現するため、学習リーダーを中心に児童自身が授業を進行させ、互いの意見を繋ぎ合う「対話の形」の構築に注力してきた。その結果、「自分たちで学習を進める」という意識はある程度定着し、一定の成果を収めた。

一方で、新たな課題も明確になった。リーダーの進行に頼り、単に考えを発表することに満足してしまい、一つひとつの考えに「根拠」を持たせ、思考を深め合うという「対話の中身」である。本年度は、これまでの成果をさらに発展させ、「型」としての対話から、学力に直結する「質の高い対話」へと価値を移す。

今年度の研究では、対話の質を高めるための前提条件として「自走力」を掲げる。自走とは単なる自習ではなく、以下の姿である。

- ・課題に対して自ら見通しをもち、主体的に学習を進めることができる。
- ・学習の途中でつまづいた際にも、既習事項や資料を活用し、自ら解決しようとするすることができる。
- ・他者との対話を通して、自分の考えを根拠をもって説明し、より深い理解へとつなげることができる。
- ・学びを途中で止めることなく、よりよい解決を目指して粘り強く取り組むことができる。

こうした「自走力」が身についたとき、子どもたちは教師の指示を待つのではなく、自分たちで学びのハンドルを握り始める。教師が隣にいない時間こそ、自らの知識をもとに粘り強く考える。また対話の場面では、友だちと自分の考えの根拠をぶつけ合って答えを見つけ出す。そんな「自分たちの力でどこまでも進んでいける姿」を、本校の目指す研修主題である『「伝えたい」「かかわりたい」「ひとを大切にしたい」と考える加太っ子』の姿とする。

6. 研究領域

算数科・自立活動

7. 具体的な取り組み(自走させるための手立て)

(1) 学級づくりについて

- ① 個々の子どもをていねいにみつめる。
 - ・仲間づくりアンケート等をもとに教育相談を各学期に1回実施する。
- ② 心にとめる子どもを中心にクラスや全校児童の変容を見る。
 - ・各クラスで一人、心にとめる子どもを設定し、その子とクラスの児童や全校児童のかかわりを見つめる。その際、「周りの子のかかわり方を変える」という視点を大切に、クラスや全校児童の変容を見る。
- ③ 日頃から、子どもの姿を交流・相談する。
 - ・学年の枠を超えて子どもの様子を観察し、お互いに伝え合う。その内容を子どもに返していく。課題が見つかったらすぐに相談をかけ、具体的な手立て・方向性を考え合い、指導を行う。
- ④ 保護者の思いをつかみ、連携をはかる。
 - ・学校行事や懇談会など、保護者と顔を合わせる機会を利用して対話を充実させ、理解を進める。連絡帳や電話など、日々の連絡をこまめに行う。
- ⑤ SST に取り組み、よりよい対人関係の在り方を学ぶ。
 - ・日常生活の子どもの様子から、会話や行動の課題をつかみ、話し方や聞き方、あいさつの仕方など対人関係がうまくいように全校で SST に取り組む。その後、自分の言動についてふり返りを行う。児童会を中心に「挨拶・整理整頓・互いを認める」を重点項目として各学級で取り組みを考える。

(2) 基礎学力の向上について

① 4つのタイムの設定

○あさかぜタイム	月曜日	全校読書
	火、水、木曜日	1年生…国語短時間学習 2年生…国語短時間学習 3・4年生…国語短時間学習 5・6年生…外国語短時間学習
○一点集中タイム	火～金曜日	掃除後5分
		・計算問題を中心に取り組む。
○チャレンジタイム		
		・自主学習(予習を中心に)の内容を充実させる。 ・わくわくメニュー、パッチリメニューから選択する。
○はなまるタイム		
		・現学年の国語と算数の内容を習熟させる。月曜日の放課後を活用して、月1回、年間10回程度実施する。



②予習学習の設定

新しい単元に入る際や、学習のステップが上がる前段階で、児童が自ら既習事項を振り返り、見通しを持つ場を設ける。

あらかじめ課題に対して自分なりの予想や「分からないポイント」を持って授業に臨むことで、教師が直接指導できない時間（間接指導）であっても、何をすべきか迷うことなく自分たちの力で学習をスタートさせることができる。

また質の高い対話には、自分の考えを持つための「時間」が必要である。事前に資料に触れ、既習事項と繋げておくことで、授業中の語り合いにおいて「教科書のここにこう書いてあるからこう考えられる」といった根拠のある発言を引き出す。予習は完璧な解答を作ることを目的にしない。「ここが分からない」をあらかじめはっきりさせておくことで、授業の中で友だちの考えと繋がる目的が明確になり、解決に向けて粘り強く取り組む意欲へと繋げる。

③家庭学習の定着を図る

- ・家庭学習の内容や取り組み方を学年に応じて、発信する。
- ・自主学習を掲示し、紹介し合うことで、子どもたちの学ぶ意欲を高める。
- ・タブレット端末を活用し、個別の課題に取り組むことで自学自習の習慣を身に付ける。

(3) 学び方について

児童が「どうやって学習を進めればよいか分からない」という状態をなくすため、本校では、全校で「学びの型」を設定し、共通理解を図りながら指導を行う。

学びの型

- ・思考を可視化するノートの書き方（疑問には「?」、気付きには「!」を用いる）
- ・行き詰まった際の解決方法（既習事項や教科書・ノートの振り返り方）
- ・友だちへの尋ね方や教え方



また、学習リーダーの進行に頼るだけでなく、一人ひとりの児童がこの「学びの型」を活用することで、自ら見通しをもち、つまづいても学びを止めずに学習を進めることができるようにする。共通の型があることで、「何をすればよいか」が明確になり、安心して学習に向かうことができると考える。

さらに、型を基盤とすることで、児童同士が同じ視点で学びに向かうことができ、「どこで困っているのか」「どのように考えたのか」を共有しやすくなる。その結果、対話が活性化し、他者の考えと比較・関連付けながら、自分の考えを深めたり修正したりする姿につながると考える。

研究授業や公開授業においては、児童が「学びの型」を活用しながら、自ら学習を進めようとする姿、つまづいても学びを止めずに解決しようとする姿、他者と関わりながら考えを深めようとする姿を参観の視点として検証していく。

(4) 教職員の研修について

① 研究授業を軸に日々、実践を重ねる。

- ・授業における視点児童を設定し、自走する手立てが有効であったかどうかを考え合う。
- ・参観の視点について

★学び方の定着度

児童が立ち止まることなく、学びを続けているか。

課題が終わったあと、指示を待たずに次の活動に自ら移れているか。

詰まったときに「?」を書いたり、教科書を読み直したりといった「学びの型」

を使いながら学習を進めていたか。

★児童同士の関わり

対話や説明の際に根拠をもとに自分の考えを伝えられているか。

みんなが解決していこうとする雰囲気があるか。

- ・事後検討について…参観の視点にそって意見交流し、子どもが自走させる「仕組み」について検討する。何を学び、学んだことをどう生かすかを常に意識する。（研修の自分化）



② 個々のスキルアップを図る。

- ・各校の公開授業や学習会に参加する。
- ・各教員の疑問をもとに定期的にOJTを行う。

8. 研究構想図

学校教育目標 仲間とともに豊かに学び、社会とつながる加太の子の育成

研修テーマ 「伝えたい」「かかわりたい」「ひとを大切にしたい」と考える加太っ子の育成

～自走力の育成をめざして～

<伝えたい とは>

- ・学習や縦割り班・児童会での活動に意欲的に取り組み、そこで生じた自分の考えを、根拠を明らかにして周りの子に伝えようとする意思と力
- ・周りの子の発言を自分の考えと比べながら聞き、考えを深め、意見を返すことができる意思と力
- ・人との関わりにおいて、理不尽なことや疑問に感じた時に、それに対して声を挙げることができる意思と力

<かかわりたい とは>

- ・やりたいことや知りたいことを自分で見つけ、学習を深めることができる意思と力（物や事とかかわる）
- ・周りの友だちと協力して、一つの課題を解決しようとする意思と力（友とかかわる）
- ・興味をもったことや疑問に思ったことについて、地域の方や保護者、教職員との対話を通して、理解を深めようとする意思と力（大人とかかわる）

<ひとを大切にしたい とは>

- ・自分も周りの子も家族も地域の方も大切にしたい考えや気持ちを持つ
- ・周りの子の考えや行動を受け入れる考えや気持ちを持つ
- ・縦割り班活動以外にも、異学年とつながり、活動できる考えや気持ちを持つ

【自走力とは】
自ら課題に取り組み、学び方を選択・調整しながら、他者と学び続ける力

加太スタイルを意識した授業づくり 基礎基本を大切に授業づくり

算数科・自立活動

主体的に取り組む力

協働的に問題を解決する力

1 確かな学力・自走する子ども

2 質の高い対話・語り合い

3 学級づくり・基礎学力・学び方

人権教育の推進
自分と仲間を大切にする子の育成

社会に開かれた教育課程の推進
地域・保護者の教育活動への参画

家庭との連携
生活習慣の確立・家庭学習力の定着

教職員資質の向上
授業改善に向けた研修の充実